

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：2021年 3月 5日

事業所名 放課後等デイサービス あすなる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	必要に応じて静養室を設けて対応している。	人数が多い時等狭く感じる事があるので物の配置を考えスペースを確保していく。
	2	職員の配置数は適切である	6	1		スタッフ1人に対して2-3人という配置が多い為負担は少ないと思う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1	転倒防止などの処置を施し、職員の配置などでカバーしている	階段がある為バリアフリーとは言えないが、手すりや滑り止め等を設置し、出来る限りの配慮を引き続き実施する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	会議等で意識の統一を心掛けている。	全体として目標が明確になっていないように感じるが会議等で意識の統一を図るために各委員会を設置する
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	送迎時にできるだけ保護者とコミュニケーションを図っている	新入社員の対してのコミュニケーションスキルなど、スタッフ育成のためのミーティング等が必要。今後、取り組んでいくことにより、保護者ニーズの取り込み強化に努める
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1	毎年ホームページにアップして、会報等で告知している	周知不足により、認識されていないため、周知に工夫を加える ホームページでの掲載箇所の強調などを改善する
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	2	自己評価アンケートは毎年行っている	年一回の自己評価アンケート以外に外部評価を行っていないため、業務改善に繋げるための外部評価を行う必要がある。 要検討項目
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	適時研修を行っている。終礼時に議論し合っている。	外部研修の受講、外部講師の招致、等、研修の質の向上を図る
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	通常の業務において支援計画に準じてサービス計画を作成している	コロナ禍において、十分な遂行ができない現状があるが、状況に応じて適宜、通常支援サービスに移行していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0		スタッフが理解活用しやすいアセスメントツールに改善を図る
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0		特定の人たちが立案する事が多いので、各々が意見を出し合いチームとしての立案ができる様に改善を図る
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	コロナ禍で制限がある中出来るだけ工夫をしている	コロナ禍という事もあり出来る事がいつもより少ないので定番化しているものに偏り過ぎない様にもっと話し合いをし、工夫をする。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	支援計画に準じて個々には工夫している	個人個人の課題はあるが、全ての課題が平日・休日に応じてという訳ではないので改善点とする。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	コロナ禍において、密を回避しながらも少数集団としての活動も行っている	コロナ禍の今後の状況に応じて、適切なサービス計画を適宜に改善していけるようにする。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0		土曜日等朝早い時は、十分な打ち合わせが出来てない時があるため、業務改善を行う必要がある。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	毎日の終礼にて、気づいた点などを話し合い、フィードバックをする事でスタッフの意識の共有を実施している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	記録の取り方などの研修を行っている。	記録に関して抜けがないかの確認をしっかりと行う必要があるため改善していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	通常業務にて行っている	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6	0	基本的に則っている	ガイドラインとの見直し等の基準が明確でないので、基準を設けて改善していく。	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	児童状況及びその保護者と連携したものが担当している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	0	行事や下校時間、送迎については主に保護者と連絡調整している	今後ITCの活用推進などを検討する
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	1		医療的ケアが必要な子を受け入れていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	0	中高生の施設の為保育園等との情報共有はないが、学校や他デイと行っている。	情報連携の強化のためにITCの活用を検討する
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	0	行く先によっては情報提供が行えていないところもあるが、積極的に行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	0	研修を受講している	研修は受けているが連携をとって助言頂くまではしていないので連携を取る必要がある。要検討項目
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	2	一般公園での外遊時には交流を促している	コロナ禍により制限されているが、今後の状況に応じて、公園で交流のみならず、もっと行う必要がある。要検討項目
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1	参加している	現在コロナ禍の為、開催が見送られている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	送迎時にできるだけ保護者とコミュニケーションを図っている 連絡帳の活用している	ITC活用による動画の配信等、今後検討していきたい
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	0	対応力の向上を図る為にアドバイス等は行っている	ペアレントトレーニング等の支援として明確には行っていないので今後実施を検討していく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	適宜、相談には親身になって対応するようにスタッフ全員心掛けている	新入社員にも適切に対応できるように、スキルアップのための育成研修を検討する
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	0		コロナ禍により保護者会等を行えていないが、今後状況により実施を検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	苦情相談窓口を設置している。	苦情相談窓口を設置しており、活用できるように周知も徹底していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	毎月、新聞を作成して情報発信している	
	35	個人情報に十分注意している	7	0	取り扱いには注意を払っている	個人情報取り扱い研修を実施する
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	コミュニケーションには特に配慮している	コミュニケーションスキル向上の研修を実施する
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	0		見学以外に地域住民を招待する事を行っていない。コロナ禍の状況次第で今後は地域との関わりを積極的に行っていく必要がある。要検討項目

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0	マニュアルを活用した研修を実施している	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0		災害対策委員会を設置し、研修、啓蒙活動を実施する
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0		身体拘束・虐待防止委員会を新たに設置し、研修、啓蒙活動を行う
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	0		身体拘束・虐待防止委員会を新たに設置し、研修、啓蒙活動を行う
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	保護者からの情報を支援情報として共有している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1	ヒヤリハットを作成し研修等で共有を行っている	ヒヤリハットを作成し共有を行っているが、事例集の作成を行っていないので、今後は作成を実施していく。事故対策委員会を新たに設置し、研修及び啓蒙活動を実施する。